

## 合意形成学国際プログラム第1回シンポジウム コメント

### 1. テーマ(「新しい「合意形成学」はどうあるべきか」)の設定について

- ・ これまでの「合意形成学」は存在したのか。
- ・ 従来の社会選択論の枠を拡張してより複雑な合意形成の場において意思決定を円滑にするためのサポートツールとしての新しい合意形成学の貢献の余地を探ることは非常に重要だと思う。
- ・ 現在では様々な合意形成の場面がありその重要性はますます高まっている。その流れの中で合意形成を学問として体系化させるという試みは画期的で重要と感じた。
- ・ 第1回のテーマとしては適切だと思います。
- ・ 何となくそういうのが必要だという認識は共通しているのだけれど、設定に際しての思い入れに必ずしも合意がとれていない気がしました。
- ・ 「新しい」というワードによって広がり生まれ幅広く様々な角度からのアプローチの話の聞けそうな印象を受けました。

### 2. 講演について

#### 講演1: 猪原健弘先生

- ・ 数理モデルの具体例での検証事例が欲しい。
- ・ 3つの定理から導き出される新たな合意形成論は非常に興味深かった。主体の選択を行うという考え方は私が考える「合意形成」にはない考え方で、先生が「合意形成」をどう捉えられているのか気になった。合意形成の定義とは。
- ・ 新しい合意形成学が扱うべきものや課題について明確に整理されており理解しやすかった。
- ・ 社会選択論で用いられている数理的枠組みについてこれまでの研究、これからの課題のことがとても分かりやすく説明された。新しい「合意形成学」が扱うべきことについて明確に認識することができた。
- ・ 実際の合意形成の場で (n,n) の主体がその場に存在するケースが想定できませんでした。
- ・ 「ルールの選択」或いは規範の選択は serious な合意形成の場面で決定的だと思うんですが、「規範」についてはやはり公理的に説明できないと説得力が落ちるように思います。
- ・ 理論が現実近づいてきているという印象を受けました。また多様性そして現実への適用性がより高い理論が生み出される可能性を感じました。また使える理論のさらなる発展の展望が垣間見えました。

#### 講演2: 出口弘先生

- ・ 非常に速いペースで難しい社会科学アプローチ(モデルとエージェントシミュレーション)を話されたが、もう少し企業モデルの内部構造を理解したいところです。
- ・ FFDMM は集団をある方向へ導くための強力なツールとなりそうである。一方でそれは強引な合意形成になってしまう側面を持つ。参加者にはツールとの距離感、バランス感が求められると思う。
- ・ シナリオが持つ様々なオプションを予測評価し、望ましい意思決定と合意形成について考察することの意義を理解することができた。
- ・ エージェントベースシミュレーションによるシナリオ予測評価について様々な具体例を挙げて述べられておりとても興味深かった。もりだくさんだったので初学者にとってはやや難しい内容だったと思う。
- ・ 特にコメントはありませんが、共有地ハイブリッドシミュレーションのお話を詳しくお聞きしたかったです。
- ・ 「合意形成」が最大のキーワードなので、政策パラメータの調整と合意形成の関係がもう少し明瞭な方が良いと思いました。「討議空間」のイメージとリスクヘッジの関係がいまいちわからない。
- ・ フィードフォワードと聞くと、設定によって論拠づけが難しいのではないかと思っておりましたが、発表を聞いてシミュレーションがかなり現実味を増してきていて、意思決定状況において十分に判断材料になるものだと思います。

### 講演 3：中丸麻由子先生

- ・ 新しい知見を学んだが合意形成と制度設計に有効かどうかは疑問。
- ・ 合意形成を行ううえでの原則作りへの寄与が理論的側面から期待できそうである。
- ・ 意思決定ルールにおいて得点依存増殖率モデルを用いて協力的罰の進化に焦点を当てた発表はとても興味深かった。今後のシンポジウムなどで合意形成に応用する術などについて話を聞いてみたいと思った。
- ・ 合意形成の協利行動や社会規範について生物の進化ゲーム理論を社会科学での進化ゲーム理論と結びつけて協利と罰の進化ダイナミクスをもとに考察している点が新しくとても興味深かった。
- ・ ゴシップ、噂が制裁となるような意思決定の場とは国政選挙などを想定すればよいのか。
- ・ 「協力的罰」の合意形成における位置づけがはっきりしないのでイメージがあまり湧かない。Positive Sanction/Negative Sanction の視点が入るとより位置づけが明確になると思います。
- ・ 社会における人間関係の切り口が個人的に新鮮なものであったので楽しめました。格子モデルシミュレーションに少し興味がわきました。

### 講演 4：桑子敏雄先生

- ・ 猪原先生の枠組とつなげた整理はおみごとです。
- ・ 組織がもたらす弊害をどう克服していくのが難しい。
- ・ 仮定や予測ではなく実際の合意形成の場から得られる示唆は新しい合意形成学の確立に大きく貢献するものであると思う。「合意形成の難敵」が発生する理由と解決方法についての考察は他の分野への応用が可能だと思う。
- ・ 今回のプログラムでは唯一合意形成の現場でどのようなことが行われているかを具体的な体験を通して写真とその時の状況説明により詳しく紹介されていて大変参考になった。合意形成では何よりも実践が必要だと感じた。
- ・ 公共事業について今回は地方での事例を挙げられていて、都市型公共事業の事例との対比が欲しかったです。
- ・ 「地域性を把握しないと同じ手法/やり方でも正反対の結果になる」という知見は数理的に捉えると面白いのでは？と思います。「地域性」とはメンバーの属性というより問題の性質のことなので数理的分類が可能に思える。
- ・ 現場主義、経験主義的な合意形成の話で猪原先生の話と対比すると現実から理論(形式知)へのアプローチであると思いました。実践の中で共通要素を抽出するという方法はある意味最も現実的なものがあるが、その分労力も膨大になると思うので、容易なことではないだろうと思いました。

### 3. 全体パネルディスカッションについて

- ・ 活気がありました。本質的でした。
- ・ 合意形成のシンポジウムだけあって、みんながみんなのことを考える素晴らしいディスカッションだった。
- ・ 合意形成はどうあるべきかについての合意を得ること自体が相当難しいんじゃないかと思った。
- ・ 各々の講演をもとに総括的に合意形成学について論じ合うことでそれぞれ個別の事例の意味、関係性がより分かりやすく理解することができた。
- ・ 話の中にもあったとおり「情報交換」の円の大きさの点については自分も違和感がありました。もっと他の円にくいこんでいるようなイメージがあります。
- ・ 「合意形成学」はメタ学問だと思うのですが、お互いの知の background に対していまいち理解がなされていないので、それを埋めるシーンがあれば良かったと思います。
- ・ 講演者の 4 人の遠からず近からずの関係のおかげか四者四様の視点から質疑応答、主張が行われ今回のシンポジウムの中容をまとめつつ深めていけたように感じました。

### 4. シンポジウム全体について・その他

- ・ 良かったです。

- ・ 合意形成について多角的に論じられた事はとても有意義だった。
- ・ それぞれの分野からの合意形成へのアプローチを理解することができた。共通の意思決定事例に対してそれぞれのアプローチからの知見を持ち寄り統合したツールが確立できればよいが、そのツール確立のプロセス自体にも合意形成が必要となるため難しい問題だと感じた。
- ・ 合意形成に関して理論シミュレーション、実践など多様な側面からのお話を聞くことができ今回のシンポジウムだけでもとても勉強になった。
- ・ 大変興味深い話でした。キックオフとしては良かったと思います。
- ・ 講演間の関係がはじめに明らかにされた方がわかりやすいです。
- ・ それぞれの講演が独自の切り口で「合意形成」を捉えていてバラエティに富んでいたと思います。講演者のバランスが良かったと思います。

#### 5. 次回シンポジウム（2008年3月15日（土）予定）への期待

- ・ 私も参加したいものです。
- ・ 一つの事例についてそれぞれの観点から分析してみると面白いのではないだろうか。
- ・ 合意形成のために自分の専門と他の専門分野とのリンクを意識した内容の話が聞けると良いなあと思います。
- ・ 他の研究者の方々からの違ったアプローチ法についても知りたいと思います。
- ・ 名前に International (IPCOB) が入っているので国際を意識したものを入れると良いと思います。
- ・ マップの案が出せればまた話が盛り上がるのではないのでしょうか。
- ・ 非常に個人的な意見ですが、今日の講演者の方々は割と身近な方ばかりだったので次回は外からのゲストを招待するとよりバラエティに富んだシンポジウムになると思います。